

令和5年度 第3回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和5年12月13日（水）10時00分～12時00分

四国森林管理局 局議室（Web 併用）

2 議事概要

【委員会の検討結果】

ヒノキ製材品については、引き合いあり年内は概ね好調な推移が見通されるが、住宅着工戸数の減少が見られるなど、今後の製材品の需要に不透明感があり、年明け以降は再び荷動きの鈍化を懸念する声も聞かれる。

丸太の需要においても、現在、ヒノキについては安定した引き合いが見られ、価格は3m柱適材を中心に総じて値上がり傾向にあるが、年明け以降出材量が増えればスギ・ヒノキともに現状維持から弱含むのではないかとの意見もある。

こうした中、現時点では引き続き国有林材の供給調整は行わず、民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくべきである。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 伐採適期に入り、素材生産量は順調に増加している。柱や土台を中心にヒノキの需要は一定程度あるものの、木造住宅着工戸数は対前年比95%程度と低迷しており、需要の盛り上りは見られない。
- ・ 出材状況については、例年と比べ変化は感じられない。ヒノキは品薄感から安定しているが、スギの引き合いは全般に鈍い。新築戸数の減少に伴い製材品の動きが悪いため、先行きも期待できないと感じる。
- ・ 生産活動は概ね順調に推移しているが、作業環境の悪化や作業者の減少等を考慮すると生産活動は限定的と感じる。このような作業環境等では、機械化による生産性の向上には限界がある。要員確保が進めば生産活動への好転が期待できると考えており、作業者の確保は大きなポイントである。

○ 原木市場・共販所

- ・ 伐採時期も良く天候も安定しているためスギ、ヒノキとも出材量は増加傾向。販売については、スギは相変わらず引き合いが弱い状況が続いており価格は横ばい。ヒノキは引き合いがあり3m材では値上がり傾向がみられる。先行きも年内は横ば

いから値上げ傾向も、年明け後は弱含む可能性があるのではないかと。

- ・ 中国木材の火災の影響で全国的に代替需要の影響もみられ、ヒノキの買気は強め、価格も少し上昇気味。一方、スギの動きは弱い。今後も相場は落ち着いた状態で推移するのではないかと。
- ・ 天候がよくスギ・ヒノキともに入荷は安定。販売にあたっては、ヒノキは外材の代替需要等もみられ全体に引き合いがあり良好。特に3m柱口・4m土台が強含み。スギは製品荷動きが影響し鈍化、全体に状況は変わらず低調。先行きについては、ヒノキは年内においては強含みと思われるが、伐採量が増えてくれば年明け後は弱含むと予想。スギは現状のまま推移するのではないかと。

○ 製材工場等

- ・ ヒノキ、土台・柱材の価格が上昇しているが、一定以上上がると買い控え。また、スギ間柱・垂木も不足気味だが在庫は良好。少子高齢化、職人の高齢化と職人離れ、資材高騰と住宅ローン上昇により、木材の供給先である住宅着工戸数の減少は著しくなるとの見方が大半である。
- ・ 原木調達は、ヒノキの出材が思ったほど増えなかったことから不足感がある。10～11月の稼働状況は通常時の20%増。製品出荷は、中国木材の影響で米松からヒノキ材への樹種変更がみられ、10月から急に注文が増え通常時の30%増、11月も同水準で推移しており、単価も徐々に値上げの話が通るようになってきた。中国木材の影響は2～3ヶ月ほどで落ち着く雰囲気なので年内は良好だが、根本的に住宅着工戸数が増えているという話は聞かないのでその先は不透明である。
- ・ 10～11月期は、出材も少なくスギの中目、30上の価格は少し強かった。9月の半期決算の反動、季節的に内装材が動く時期であること、また、中国木材の影響で代替需要があり忙しかった。12月以降はまた苦戦しそうに感じる。